

## 福井県衛生環境研究センター活動報告 概要

発表演題名	狭水路で連なる汽水湖における有機物指標に関する一考察
発表学会名	第61回水処理生物学会年会
発表者名	石川 翔一（環境部）
開催場所	東洋大学川越キャンパス（埼玉県川越市）
発表日時	令和7年11月15日（土）15：30～15：45
発表内容	<p>三方五湖は福井県南部に位置する汽水湖群であり、上流域の最大河川であるハス川が三方湖に流入し、水月湖、久々子湖を経て若狭湾へと接続している。それぞれの湖は形状や水深が異なり、狭い水路で連なる複雑な構造であることから、難分解性有機物の蓄積状況や水質動態が地点ごとに異なることが予想される。本報告では、三方五湖の流域におけるTOCとCODの関係性から、各地点の有機物の特徴について考察を行った。</p> <p>その結果、TOCとCODの間で有意な正の相関が全地点で確認された。得られた近似式の傾きが大きい程、COD法によって分解される有機物の割合が多いと考えられ、ハス川、三方湖、水月湖、久々子湖の順に近似式の傾きが低下した。この結果から、ハス川が三方湖に流入し、水月湖、久々子湖を経て流域の末端に近づくにつれて過マンガン酸カリウムで分解される有機物が減少し、全有機物に占める難分解性物質の割合が増加していることが考えられた。このことは、三方五湖のように連続する湖においては、生物分解に要する停留時間が十分に確保されるため、下流に行くほど分解が進むと考えると理解しやすい。さらに、汽水湖では海水が遡上するため、流域の末端に近いほど海水で湖水が希釈される効果が影響していることも考えられた。</p>